

研究概要

1 研究主題

未来を拓く力を身に付けた学び手の育成
～主体的に学びに参画するための手立ての充実を通して～

2 研究主題設定の理由

昨年度、本校独自のふるさとキャリア教育「男鹿南ぐるおがる」を教育活動の軸に据え、研究部では共通実践事項である〈男鹿南中スタンダード〉を全職員が共通理解し、実践を進めてきた。その成果と課題を以下に示す。

- 地域とつながり、学習の成果を外に向けて発信する取組を多く取り入れた結果、多様な人に認められた経験が自己肯定感を高めたり、「外に発信する」という目的意識が学習意欲を引き出したりすることにつながった。
- アンケートへの回答から、振り返りや価値付けに力を入れて取り組むことで、自分のよさを実感しながら、前向きに学習にチャレンジする姿勢を養うことにつながった。
- 秋田県学習状況調査、各種テストの結果から「知識・技能の確実な定着」に大きな課題が見られる。
- 通常学級における特別な支援を要する生徒が増加している。
- 各種アンケートにおいて新2・3年生ともに「学校の勉強がよく分かる」「勉強が好きだ」という項目が低下しており、学習意欲の喚起が必要である。
- 男鹿南中スタンダードの取組による成果に、学年ごとの差が生じているため、全学年・全教科で共通認識及び実践を深める必要がある。

本校の経営方針とこのような生徒の実態を踏まえ、今年度は研究主題に「未来を拓く力」を掲げた。「未来を拓く力」を身に付けた生徒を姿が、以下に掲げる3つの生徒像である。このような生徒像を実現するために今年度は、学びのユニバーサルデザイン化を踏まえた共通実践事項の徹底を図り、生徒が主体的に学びに参画できるような授業づくりを意識して取り組む。このような取組によって前向きに学ぶ意欲をもたせ、上記の課題を克服しながら、学校教育目標に掲げる生徒の育成の実現につながれると考える。

3 研究の仮説

男鹿南中スタンダードに学びのユニバーサルデザインの視点を位置づけて実施したり、教科の特質を生かしながら男鹿南中スタンダードの各過程における実践事項を具現化したりすることで、学びの土俵に立ち、主体的に学びに参画することができる生徒が育成されるだろう。

〈学びへの参画〉：それぞれの個性や能力、適性を生かし、課題解決に主体的に関与すること。

4 目指す生徒の姿

	①Strength (活力)	②Sympathy (共感)	③Smart (生きてはたらく知)
目指す生徒像	○課題解決のために前向きに挑戦したり、粘り強く取組を調整したりする生徒	○自他のよさや思いを理解し、生かしながら、対話を通して課題解決に取り組む生徒	○基本的な知識・技能を身に付け、活用できる生徒
具体的な姿	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて、試行錯誤しながら取り組んでいる。 ・学ぶ楽しさを見だし、前向きに学習している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもって、筋道を立てた表現を心掛けている。 ・仲間の思いを寛容に受け止めている。 ・ゴールを共有し、対話を通して解決に向かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した知識・技能を基に思考し、課題解決への見通しを立てている。 ・根拠を明確にしなが、論理的に思考している。

5 研究の重点と具体的方策

〈重点1〉教科等の枠を越えた共通実践事項の徹底

- ・ 学びのユニバーサルデザイン化を踏まえた環境づくりを行う。

〈重点2〉教科の特質を生かした共通実践事項の具現化

- ・ 次頁記載の「男鹿南中スタンダード」の各過程における、学びのユニバーサルデザイン化を踏まえた授業づくりの観点から、各教科で取組を具現化する。

6 実現状況の把握と手立ての有効性についての検証

方法	把握と判断の視点
①秋田県学習状況調査の結果分析及び活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度と比較した学習の改善状況（各教科の通過率が前年度を上回る。） ・ 県全体で課題とされる分野の改善状況（同様の設問の通過率が前年度を上回る。）
②学習と生活に関するアンケートの実施 （4、7、12月）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問項目(1)～(9)における肯定的回答の割合の経年変化、通年での変化から生徒の意識と取組の変化を捉える。
③授業に関するアンケートの実施 （生徒：7、12月） （教師：6、8、1月）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各質問項目における肯定的回答の割合の経年変化、通年での変化から、男鹿南中スタンダードの各過程における手立てが具現化されているか捉える。 （質問項目(1)～(3)は導入の工夫、(4)～(6)は学び合いの工夫、(7)～(9)はまとめ・振り返り・価値付けの工夫、(11)はコーディネートとファシリテートの工夫） ・ ②と③のアンケートの回答に関する相関関係から、手だての有効性を捉える。
④相互授業参観の実施 （6～7月、10～11月）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参観シートの記述を基に、手だての有効性を子ども姿から捉える。 ・ 参観シートの内容を基にして、その後の授業改善に役立てる。